

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 深見 智史
(事業所) ラポールあおい

発表者名： 山崎 令子、宮 亜美、牧野 共、
(事業所) 繁田 あす香(ゆうゆう舎)
小野田 記子(ウイン作業所)

役 職： 管理者

役 職：

【発表事業所の概要】

<ゆうゆう舎>

事業区分	就労継続支援 B 型、生活介護
定 員	20 名
活動内容	「種子島のお砂糖」パッケージ販売、菓子製造、店舗運営、注文販売、工芸品アート作品制作（ヒンメリ・ポストカード等）、手すきはがきの製作、縫製品製造等

<ウイン作業所>

事業区分	就労継続支援 B 型
定 員	20 名
活動内容	秘伝のタレ、手芸品、プラモデル袋詰め、ギフトボックス箱折り、ゆうメール配達、情報誌配布、シェアサイクル点検清掃、企業内清掃等

【支援・活動事例の概要】

目標・目的	テーマ：意思決定支援『作業所の日常 自分たちの目線からもう一度考えてみよう』 キーワード：当事者から学び自己を見つめ直す、メンバー主体の活動、職員がメンバーに対する声かけによって生じる雰囲気、メンバーの意思を汲み取る、話し合いが大切、仕事について、私の楽しみとお金の使い方、
計画・手段	ゆうゆう舎職員（山崎氏）、ゆうゆう舎利用者（宮氏、牧野氏、繁田氏）、ウイン作業所利用者（小野田氏）からの発表
内容・経過	① 山崎氏の発表 ゆうゆう舎では本人主体の実践として、朝の会と帰りの会での MC やスタッフ会議やひつじ会(当事者メンバーさん主体のグループ)の活動などを行ってきたが、コロナ禍によってスタッフ会議とひつじ会の活動は消滅してしまい、ボトムアップの意思決定は静まってしまった。その後、少しずつ本人中心の活動を再開し始めた。職員の方には伴走する気持ちで取り組むことが肝要ではないかと考えている。 ② 宮氏の発表 コロナ禍で初めて在宅支援を経験。最初は何をして良いかわからず戸惑った。また、これまでメンバーも職員も一緒に昼食を食べていたがコロナ禍でそれが無くなり、シールドが置かれるようになったことに違和感を抱いていたが、今ではそれも当たり前になり慣れてしまった。メンバー主体の活動も制限されていたが最近再開した。自分達で考え選択し、実行する経験を積む機会として大事に続けていきたい。職員の役割は相談に乗るなど、必要な所でサポートして一緒に楽しむことだと思う。事業所内で職員さんが忙しそうにしているのが感じ取れてしまうと、ちょっとした困りごとなら声をかけるのをためらってしまう。また、気持ちが言葉になりにくく、汲み取るのが難しいメンバーの場合には、職員の声かけ次第で本当の気持ちが示せない、我慢しているように見える時がある。

	③ 牧野氏の発表 コロナ禍での在宅支援中は、最後の方はいつ終わるのかと思っていた。途中から PC のスキルアップの動画を見たり、色々なセミナーに ZOOM で参加した。再開後のゆうゆう舎はこれまでの活動もできなくなっており、閉塞感が漂っていた。全く情報がなく不安で仕方なかったが、職員に聞いても「情報を与えてしまうとパニックになるメンバーがいるため、情報は出せない」と言われた。伝える工夫を考えてもらえなかったことが残念だった。スタッフ会議が再開され、最初はこんなに時間がかかることをなぜしているのだろうと感じたが、「誰にでも意思はある」と感じた。意思疎通が難しいとされているメンバーであっても表情などから「望むこと」を汲み取ることができているだろうか。時間がかかってしまっても大切にしていきたい。 ④ 繁田氏の発表 今年の 5 月から自立生活を始めた。ヘルパー A さんとはお互い何か伝えたいことがあった時には「反省会をお願いします」と伝え。お互いの思いをしっかりと伝えられるようになり、安心して介助に入ってもらえるようになった。県外で合宿があり参加した際に A さんから「また違う形での自立支援ができるかもしれません」と言われ、これ以上何をさせたいのだと思って怖いと感じてしまった。反省会で A さんはおしゃれや恋愛などのことを言っており誤解していたことに気がつき反省した。日頃からのコミュニケーションの大切さを感じた。ゆうゆう舎でも似たようなことが起きやすく、先回りして考えてしまう支援者が多いように感じる。職員の方には先回りではなく一緒に考えたり、悩んだりしながらの支援が増えていくと良いと思う。 ⑤ 小野田氏の発表 静岡北養護学校を卒業後、F 食品という豆腐屋さんに就職して 26 年勤めた。その後ウイン作業所に入って勤続 10 年を迎えた。令和 4 年にはグループホームにも入所した。ウイン作業所でプラモデルの袋詰め作業や企業内清掃、ポスティング作業等の下請け作業や、「秘伝のたれ」作りも担当している。頑張って作ったたれをお客さんに「おいしいよ」と言って買ってもらえることがとてもうれしい。休みの日には近くのスーパーなどに買物に行っている。また作業所ではコープの取りまとめ買いもして楽しんでいる。葵講座という余暇活動にも月 2 回ほど参加して楽しんでいる。
結果・課題	(杉山氏からの分科会報告より) 〈結果〉 宮氏の発表からは、コロナ禍で支援者と共に考えながら過ごしていくことの大切さや、話し合っていく大切さが大事。当事者が望む支援とは何か考える機会にもなった。また牧野氏からの発表は、コロナ禍での在宅支援期間の中で悩まれたり、何をしたら良いかわからないことなど感じたことを素直に自分の言葉で話していただき、当事者に必要な情報とは何なのか、事業所の必要な情報は何なのかということを考えていくことができる提言となった。また繁田氏からの発表は自立生活についての話だが、その中で反省会をしているということであった。反省会とはヘルパーさんとの関係の中で、思い違いや修正が必要なことについて話し合いをして解決すること。話をして気持ちを確かめ合う事が大切だと感じた。また小野田氏からの発表は、仕事や相談支援の方の出会いを通じて充実して過ごしている。色々な過ごし方があるということを、ユーモアを交えて話をしていただいた。 〈課題〉 意思決定支援として共通して大事なことは、共に考えるということ。「共に」ということは、一緒にということで、その人のいないところでその人の話をしない、まさに私たち抜きで私たちのことを決めないでほしいということ、それぞれの事業所で語り合って、また良いものを探っていくてほしい。

【意見交換】（事例からテーマを抽出して）

○牧野さんの発表について、言語障害があるため山崎さんが代読されたが、自分の意思決定で話されたことを自分の肉声で話された方が良かったと思う。

○繁田さんの、先回りではなく一緒に考える支援が増えると良いと言われたことについて、本当にその通りだと感じたが、このように言われると先回りだと感じた具体例について教えてほしい。

⇒ゆうゆう舎に入った時に1人暮らしは無理ではないかと相談員の方に言われた。相談員を変えたり、色々していく中で時間はかかったが、今年の5月からやっとできる形になったので、私の中では無理ではないかと言われたことがいちばん先回りだなと感じた。無理だろうなと思ってもどうしたらできるのかを一緒に考えてほしい。

○時間がかかるかもしれないけどメンバーの意思を大切にしてほしい、利用者が誘導に流されてしまう、職員が先回りしてしまうことなどがあつた時に、ゆうゆう舎ではどのように利用者の気持ちを職員に伝えているか、職員はそれを聞いてどのように対応しているのか。

⇒誘導に流されている場面については、具体例を書くと配達などのために外出することがあるが、配達には昼食を食べてから行くので、メンバーさんの中には昼食を食べ始めるのがゆっくりな方がいて、出かける時間になったけれどまだ食べ終わっていないことがあり、そうすると職員の中には「今日はもう行かないね？」という感じで声かけをする職員がいる。「行かないね？」と、行かないことを前提に声かけをされると、言われたメンバーとしては行きたいことを言いにくくなってしまう。「行かないね？」と言われて、「うーん」と返事をするから、『まだご飯を食べ終わっていないので行かない』って言っているので置いていきます…となってしまう。本当はそのメンバーは外出するのが好きなので、職員によっては他の方より早めにご飯を食べるように声かけする時もあります。そのような時は配達に行ってきたことをとてもうれしそうに話してくれるので、「行かないね？」と言って置いていくのではなくて、配達はみんな順番で行っているの、その方の順番の時には早めにお昼の時間を取ってもらうようにしてもらっても良いのではないか、もう少し声かけの仕方があつたのではないかと気になっていた。

○小野田さんへ、豆腐屋を退職後現在勤めているウイン作業所や入居しているGHを選んで決める時に、どのような人たちと相談して決めたのか。

⇒どこに決めたら良いかわからなかったの、叔母の勤めているお弁当屋さんが今勤めている作業所にお弁当を届けていて、そこが良いのではないかと紹介してもらった。GHは1回トラブルがあつて流れたけど、空きができて入ることに決めた。叔母に紹介してもらった相談支援の方と相談しながら10年間は1人暮らしでヘルパーさんに来てもらいながら生活していたが、50歳近くになって、GHの話が出て知人の方から父親が亡くなったら食事を作ってもらえるGHを選ぶように言われていて、入ることができた。

【まとめ】（テーマに対する分科会としての結論や方向性）

（発表者より）

- ・色々な人に話を聞いてもらえたことがいちばんうれしかった（小野田氏）
- ・私が思うのは、職員に向けてお話した時に、直してほしいとかやめてほしいと思ってお話したのではなく、人間色々な気分の時があるから、なかなか普段伝える機会がないのでこういう風に感じていますよと知ってもらえたらと思って書きました。色々なことを思い出す良い機会になった。（繁田氏）
- ・こういう機会をいただき、とても良い経験になった（宮氏）
- ・ゆうゆう舎に入って10年ですが、色々なことがありました。でも、ゆうゆう舎から様々な貴重な体験をさせていただいて、本当にありがたいと思っています。（牧野氏）

当事者の方の声を聴きながら、そして自分たちの自己を見つめ取り組みながら行っていくことが私たちの仕事だと思えますし、当事者の声を聴かなければわからないこともたくさんあります。こうあるべきなど決めるのではなく常に耳を傾けながらこれから皆さんと共に取り組みをしていきたい。（進行・矢部氏）